

―― 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

来年の春に小学校へ入学を控えている「たかし」は、小学五年生の「姉」とその友達について来て、「姉」たちが、土手の斜面でダンボール箱に乗って遊んでいる様子を、一人だけ土手の上の離れた所から眺めていた。

【A】 「ねえ。」

「本当は草滑りなどどうでもいい。ただみんなの笑い声に加わって、自分も思いい切り悲鳴をあげてみたいだけなのである。さもなくとも、この広い土手の原っぱで、自分の居場所を失つてしまいそうだった。」

【B】 「お姉さん。」

「それでも姉は聞こえないふりをしている。」

【C】 「お姉さんいば。」

もうそうする以外に、自分の存在をみんなの中に引き留めでおくことができないというふうに、たかしは姉を呼び続ける。自分の行動があまりにも幼稚で、よけいに切なくなつた。日頃から子供じみた自分の「拳手」「投足」にため息をつき、一刻も早く盤を破つてそんな自分から抜け出そうと、あがきもがいているのに、姉やその友達が一緒にいるところでは、こんなふうにもろくも崩れてしまうのだ。なぜ、そのあたりの子供と少しも変わらない自分になってしまつたのだろう。たかしの小さな胸に言い知れぬ悲しみが満ちてくる瞬間であった。いつしか他の子たちも滑るのをためらい、足を止めて二人のやり取りにじつと耳を傾けていた。

姉がぱたりといつた。

「箱がたつた一つしかないのだから仕方ないでしょ……。」

「もうたくさんあったらいいのだけれど。」

その言葉を聞いたたかしの顔が、ぱっと輝いた。

そしてみんなの方へ進み出

ると、「なんだ、もっと早くいってくれればいいのに。ダンボールなら僕がうちへ帰つて取つてくるよ。」

と提案した。

みんなの視線がたかしに集まる。

「僕、取つくる。すぐ戻るから待つていてね。」

だれも何もいわないのに一人でそう決めてしまつた。たかしはもうじつとしていられなくて駆け出した。姉は弟の後ろ姿を無表情に一瞥しただけで、また

ダンボールを引き上げて土手の谷間に降りていった。

◇

「一人で持つていけるかしら。」

と母はいった。

【D】 「大丈夫。」

「お姉さんたちとみんなで仲良く遊びなさい。」

【E】 「うん。」

「暗くなる前には帰つておいで。」

【F】 「わかってる。」

「いいたいつ頃からであるうか。たかしは以前ほど母の愛情を無条件に受け入れることができなくなっていた。母の言葉にうなづく自分とは別に、意識の底の方から湧いてくるかすかな反発に気づき始めていた。

みんなが僕を待っているんだ。」

ダンボール箱を握りしめる、たかしはその場から逃れるように日向の道へ躍り出た。母が見送る後ろ姿からは、がらがらと乾いた土埃<sup>じさ</sup>が立ちのぼつた。

しかし、急ぎ<sup>\*</sup>で土手に帰る、すでにみんなの姿はなく、打ち捨てられた遊び場に、さあ<sup>\*\*</sup>と驟雨<sup>こうう</sup>のような風が舞つていた。子供たちの移ろいやすい心は、いつまでも「遊び」とどまつてはいなかつたのである。土手の上から遠くを見渡したが、みんなの行き先はわからなかつた。今ごろは、ずっと東の橋の向こう側を散策しているか、それとも川の下の笹やぶの下を闊歩<sup>こくほ</sup>しているか、いずれにして、たかしのことなど忘れてしまつていてるに違いない。風にまるびながら枯れ草を滑るダンボール箱が、飼い主からはぐれた生き物のように土手をさまよつていた。

たかしには何が起つたのか、すぐには呑み込めなかつた。呆氣<sup>あき</sup>にとられて、しばらくその場に立ち尽くしてしまつた。ひどく情けない気持ちと、恥ずかしさと、それに出所のわからないおかしさとが「つになつて、ぎこちない笑みが顔に浮かんだ。

雲などはしばらくの間所在なく眺めていたたかしは、ふと手に持つているダンボール箱に気がつき、その中にそつと体を沈めてみた。重量を得た箱は寂れた悲鳴をあげながら、斜面を滑降する。地平線がせり上がり、視界が草の中に埋もれていった。

△ 武尾光高「空のかけら」による

〔注〕 \* 驚き<sup>おどろき</sup> ちらりと見ること。  
\*\* 一瞥<sup>いつべつ</sup> ちらりと見ること。  
一晫<sup>いつせき</sup> にわか雨<sup>にわか</sup>。雨をふる。

一歩<sup>いぽ</sup> 大またで、堂々と歩くこと。  
まろびながら<sup>まろびながら</sup> 転がりながら。

一晫<sup>いつせき</sup> ちらりと見ること。

部 a、b の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

部 b 「悲鳴をあげてみたい」の類義語として使われている漢字一字の熟語を、本文中から抜き出して書きなさい。

部 a 「たかし」が「姉」に呼びかけられる場合をふまえて、呼びかけ方に変化をつけて声に出して読むとき、どのような気持ちがこめられていますか。簡潔に書きなさい。

部 A、B、C について、本文中で「たかし」が「姉」に呼びかけている場面をふまえて、呼びかけ方に変化をつけて声に出して読むとき、どのような工夫が考えられますか。その工夫の仕方を、「A、B、C」と順に読んでいくとき、「」のあとに続けて、書きなさい。

部 A、B、C について、次のように言つた「姉」の気持ちを述べた文と、弟が何度も自分を許さないという気持ち。

ア 弟を無視していたが、友達も遊びのをためらつてしまつたので、弟をあきらめさせようという気持ち。  
イ 弟が何度も自分を呼び続けていたのに、友達と遊んでいて、気づいてやれなかつた自分を許さないという気持ち。

ウ 友達とせっかく遊んでいるのに、弟に何度も呼びかけられて、友達に對して申しわけないという気持ち。  
エ 友達との時間楽しみたいのだが、弟が何度も呼び続けるので、思い切り遊び困つている気持ち。

-1-

―― 部 3 で、「逃れるように」とあるが、その理由を、次のような形で説明したい。□に入る適切な言葉を考え、十字以内で書きなさい。

たかしには、母に□のような自分を振り切りたいとう気持ちがあつたから。

―― 部 4 について、ダンボール箱で滑降しているときの「たかし」の気持ちを、本文全体に描かれている「たかし」の様子をふまえて、次のような形で説明したとき、□に入る適切な言葉を考え、三十字以内で書きなさい。

たかしは、いつもの自分から抜け出そうとあがいたり、もがいたりしてきたのだが、□のような自分を振り切りたいとう気持ちを思い知られ、孤独をかみしめている気持ち。

―― 部 3 で、「逃れるように」とあるが、その理由を、次のような形で説明したい。□に入る適切な言葉を考え、十字以内で書きなさい。

たかしは、いつもの自分から抜け出そうとあがいたり、もがいたりしてきたのだが、□のような自分を振り切りたいとう気持ちを思い知られ、孤独をかみしめている気持ち。

―― 部 4 について、ダンボール箱で滑降しているときの「たかし」の気持ちを、本文全体に描かれている「たかし」の様子をふまえて、次のような形で説明したとき、□に入る適切な言葉を考え、三十字以内で書きなさい。

たかしは、いつもの自分から抜け出そうとあがいたり、もがいたりしてきたのだが、□のような自分を振り切りたいとう気持ちを思い知られ、孤独をかみしめている気持ち。

△ 武尾光高「空のかけら」による

-2-